



令和5年度入学式が4月2日に本学体育館で行われ、新入生32人（国際学部129人、経営情報学部193人）が、春爛漫のみずきのキャンパスで、未来へ羽ばたく学生生活をスタートさせた。

希望に胸を膨らませた新入生は一人ひとり氏名を呼ばれて起立し、越智敏夫学長が式辞を述べた。越智学長は「高校時代はほぼコロナの時代で、本当に苦労されたことと思います」と労をねぎらい、「大学は皆さんに知識や技能を叩き込む存在ではない。自分でものを考える方法を教えるのです。授業は理屈で考えることが中心、わかりやすいものには異がある。『疑う知性』を身に付けてください」と激励しました。

続いて在学生を代表して学友会長の阿部和樹さんが「積極的に行

令和5年度入学式
晴れやかに322人

大学は理屈で考える場 議論通して社会に参加

動すれば新しい発見や出会いが待っている。成功も失敗も大きな財産、怖れずに挑戦を」と呼びかけました。最後に新入生代表の情報システム学科田中元氣さんが「言語力と知力を学び、友人たちと切磋琢磨しながら、日々成長することを誓います」と抱負を述べました。

海外派遣留学で提携する米国のセントラル・ミズーリ大学をはじめカナダ、ロシア、中国、韓国の5大学から、お祝いのビデオメッセージが紹介されたあと、緊張した面持ちの新入生たちはガイダンスに臨み、新しい生活への第一歩を踏み出しました。

入場制限の解かれた会場には、マスク着用の保護者約300人が参列。記念写真を撮る姿も見られ、コロナ禍以前のいつもの入学式風景が見られました。



CONTENTS

2~4面

令和5年度入学式特集
学長式辞
新入生代表・私の抱負
在学生代表・歓迎の言葉

4・5面

新入生に臨む
学部長のメッセージ
日本国際観光学会
学生動画コンクール
「アトラクティブ・アワード」受賞
合同企業説明会

6・7面

再開された派遣留学
4カ国・28人
それぞれの異文化体験
教員の活動

8~12面

令和4年度卒業式特集
学長式辞・理事長祝辞・卒業生答辞
退職教員あいさつ・卒業にあたって
JABEE認定プログラム
21人に修了証書
特別表彰・式典スナップ



NUISホームページ
https://www.nuis.ac.jp
(スマートフォン対応)



Facebookページ
https://www.facebook.com/nuis.face



Instagram



Twitter
@nuis_nabbit



YouTube
公式
チャンネル

入学式

式辞

新潟国際情報大学
学長 越智 敏夫

です。痛い目に遭いながら世の中を少しでも良くしていく。そういう人類の作業に参加する。それが私たちの義務なのです。

でもそうした大げさな話にしてしまうとわかりにくいですし、入学早々、面倒な話にもなるので身近なところから考えてみたいと思います。また、社会を良くするということではあまりに大きいので、たとえばこの大学を良くするにはどうすれば良いかということを考えてみたいと思います。

この大学は私立大学です。新潟平成学院という学校法人が経営し、教職員によって運営されています。カリキュラムを教員が考え、それをスムーズに運営できるよう職員が支えます。もちろん大学の中心は皆さんを教育することですから、皆さんも大学の構成員の重要な部分です。今日からこの大学に参加したその皆さんにも大学の改善には参加してほしいと思います。たとえば、今日、入学式で大学に足を踏み入れる前に

ん。たとえばトイレです。入学式というおめでたい場でこういう話をするのも問題かもしれませんが、人間にとって排泄という行為は重要なものです。すべての人間が一日のあいだ、必ず定期的に訪れる場所がトイレです。

なんでこんなことを考えているかというと、去年の9月、モントリオールで開催されたアメリカ政治学会の年次総会に参加したこともきっかけです。コロナのためにこの学会もオンライン学会が続いていましたが、久しぶりに対面で開催されました。アメリカという名称のついた学会でありながら、カナダのモントリオールで開催されるのにはいろいろ理由があるのですが、それは省きます。

とにかく、その学会の総会は巨大な規模で開催されます。あまりに大規模なので大学ではなく朱鷺メッセのような国際会議場とそのまわりにあるホテルを複数使用します。で、その会場にあるトイレのうち、いくつかにAll Gender Restroomと書かれていて、誰がどのように使用しても良いというものでした。もちろんこれはLGBTの政治学者たちに対する配慮です。

鵜呑みにしない「疑う知性」を

性的指向性に関する少数者の人権などについて

亡くなった方々も多く、今でも後遺症に悩まされている方も多いはずですが、だからこそこういう経験から何を得るのか、ということが大事になってきます。そういうつらい経験から得ることがなかったとしたら、亡くなった方々は浮かばれません。人類がほんの少しでも賢くなるのが、亡くなった方に対するせめてもの追悼なの

も、ほとんどの皆さんは入試の際にこの大学の建物を使っているはずですが、それらの機会にこの大学の建物についてどう思いましたか。どこか直したほうが良いかと思ったりはありますか。それらの意見を出すことは大学をより良くしようとする作業に参加することです。そこで、話をもっと具体的ににしてもいいかもしれませ

いても深く議論するはずの政治学の学会において、そうした少数者への配慮がないトイレだけでよいはずがありません。公共の空間におけるトイレを考えたとき、この措置は当然のことと考えられます。しかしこの仕組みを地球上のすべてのトイレに今すぐ導入するのも、何か問題が起こりそうない気配もあります。たとえば本学で今すぐ導

入してみても何らかの混乱は起こりそうです。

そこで、この公共空間におけるトイレと性的指向性における少数者の関係について考えるために、先ほどとは逆にもう少し社会全体について考えてみるのも良いかもしれません。

たとえば日本国憲法はその第24条で「婚姻は両性の合意のみに基いて成立する」と規定しています。結婚相手は親や会社の上司など、他者が介入することなく、お互い二人だけで決めるという宣言であり、戦前の大日本帝国憲法における家父長制の強さを考えると、この新しい規程は美しいものに見えます。

しかし「両性の合意」という文字を厳格に読み取ってみれば、別の側面も見えてきます。つまりこの憲法の規定はヘテロセクシャルな異性婚のみを対象にしている、同性婚を否定する内容にも読み取れます。しかしまた、ここでいう「両性」とはとにかく人間の男女のことなので、男同士あるいは女同士の結婚だって認めてよいはずだ、ということも言えます。

また話はだんだん広がってしましますが、じゃあこの24条の文言を、より少数者に配慮したものに変わるために憲法改正をすべきだとか、いや、それは他の国民的議論の対象になっている憲法9条の改正につながるからやめるべきだ、などという点について考える必要が出てきます。

大学のトイレをどうするかという身近な問題から始まって、どうしてもこれらの際限のない問題について考えざるをえないのです。これが現代社会の議論に参加するということであり、このことが同時代を生きていくことなのです。

ているので、これらの議論に参加しています。2011年の東日本大震災以降の原発再稼働や震災復興をめぐる様々な議論、また現下のコロナ禍をめぐるワクチンやマスクなど、感染防止と経済活動の両立をめぐる議論などに嫌でも巻き込まれているのです。科学的判断と政治的判断の関係についての議論など、ずっと続いています。

ではこうした議論に「大学生として」参加するということは何を意味するのでしょうか。まずそれは理屈で考えるということですが、人間はもちろん感情的な生物でもあって、そこに大事な意味もあるのですが、社会や組織について感情的なもので判断して良いのか、という問題が出てきます。ですから理屈で考える場合には、どこまで

が自分の感情でどこからが理屈の問題かという線引きも大事なものになっていきます。そもそも自分の好きな情報だけを受け入れるのも人間の性（さが）のようなものですし。

だからこそ理屈によってものを考えると

同時代生きる意味を考えよう

因が複雑に絡み合って事態は動いているのか。どこまでがわかることで、どこからがわからないことなのか。それらも理屈で考えることは、大学での授業の中心になると思います。

そして理屈で考えるということは、もう

いうことが重要になってきます。そしてその理屈ということ自体もかなり多くのことを意味します。ある事態が起こったとしても、その因果関係はどういうものなのか、あることが起きたときにその原因は一つのものに限定できるのか。それとも多くの要

ひとつの大学の教育の特徴に関連してきました。それは「疑う」ということです。これははっきりいって高校までの教育とまったく異なる点です。大学では教員を疑っているのです。この先生の言っていることは本当だろうか。もちろん、うちの大学で嘘八

百言っている教員はいないと信じています。が、それでも講義中、教員のいうことを鵜呑みにしてはいけません。教員の話のなかに自分で疑問を見つけ、その点について教員に質問したり、図書館に行き自分で他の専門研究者の意見を調べたりするので

大学の教員は教室で皆さんに知識や技能を叩き込む存在ではありません

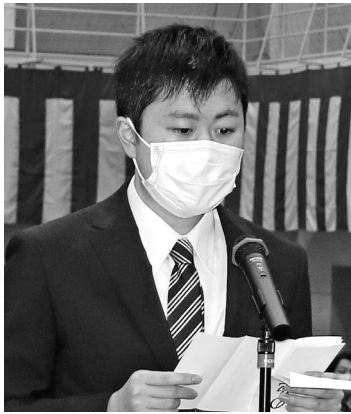
ん。自分でものを考える方法を教えているのです。これが大学での勉強の特徴です。これから最低でも4年間、留学先の大学も含めて、皆さんは多くのことを教員から学びます。

そうした勉強を経てみると、おそらくは自分の「好き嫌い」と自分の「意見」の違いもだんだんわかってくると思います。正確にいうとそれらを分けることの難しさがわかってくるはずですが、価値判断の難しさといってもいいかもしれません。そうすると、世の中にあふれている「わかりやすいもの」には畏があるということにも気づくはずですが。

こうして、自分で考え、自分で決め、責任をもつ癖をつけてください。ここでいう責任とは、ちゃんと自分の意見を、その根拠も含めて説明することです。そうした応答する能力こそが責任ということであり、これからの4年間で身に付けてほしいものです。もちろんこの「疑う知性」の対象に、この式辞を入れてもらってかまいません。僕は嘘八百言っている可能性もあるので、カナダのトイレや憲法24条などについても自分で調べてみてください。

本日はご入学、おめでとうございます。

私の抱負



新入生代表 情報システム学科

田中 元気

まだ寒さの残る中、少しずつ春の暖かさを感じる季節になりました。本日は私たち新入生のためにこのような素晴らしい入学式を挙げていただき、誠にありがとうございます。また、数々の激励のお言葉をいただき、心より御礼申し上げます。

私たちは、これから始まる大学生活を、友達とコミュニケーションを取りながら過ごし、協力しあいながら学業に励めることに、とても大きな期待感を抱いています。日常生活や学校行事などを通じて、自身の成長に繋げていきたいです。

切磋琢磨し

高みを目指す

私たちは、これから始まる大学生活を、友達とコミュニケーションを取りながら過ごし、協力しあいながら学業に励めることに、とても大きな期待感を抱いています。日常生活や学校行事などを通じて、自身の成長に繋げていきたいです。

思います。

新潟国際情報大学での4年間を有意義なものにするために、常に向上心を持ち、謙虚さを忘れず、日々成長し続けることをお誓いし、新入生代表の抱負とさせていただきます。

歓迎のことば



在学生代表 学友会長
阿部 和樹

ちは、皆さんの大学生活をよりよいものにするため日々努力しています。今回は、大学生活を充実したものにするためのポイントをお伝えしたいと思います。

まずは、自分らしい大学生活を送ることが大切です。高校までと違い、大学はとても自由です。積極的に行動すれば、新しい発見や出会いがたくさん待っていることでしょう。自分自身が何をしたいのか、どのような活動に参加したいのか、自分らしい学校生活を見つけるために、率先して行動することをお勧めします。

いる個性やアイデアを友人と共有し、互いに刺激し合うことが、より良い大学生活を送るための大切なポイントになります。授業や部活動、イベントなどで、多くの人と積極的にコミュニケーションを取ってみましょう。

そして最後に、失敗を恐れずに挑戦することをお勧めします。大学生活で成功することがあれば、失敗することもあるかもしれません。しかし、失敗を恐れずに挑戦する勇気が、自分を成長させるための大切なポイントになります。自分自身のために、積極的に新しいことに挑戦していきましょう。

新しいことに挑戦しよう

成功も失敗も大きな財産

挑戦して4年後には、成功も失敗も大きな財産となる

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また保護者の皆様にも、お祝い申し上げます。在学を代表し、皆さんに歓迎の意を表したいと思います。

今回の入学式で、皆さんは大学という新たなステージに立ちました。これから始まる大学生活に期待と不安で胸がいっぱいではないでしょうか。私達

とをお勧めします。次にコミュニケーションを大切にしましょう。大学生活は、単に勉強するだけではありません。皆さんが持つ

祝電

順不同

日本私立大学協会

会長 小原 芳明様

新潟県

知事 花角 英世様

新潟国際情報大学

同窓会 みずき会
みずき会会長 高橋 毅様



祝電

順不同

日本私立大学協会

会長 小原 芳明様

新潟県

知事 花角 英世様

新潟国際情報大学

同窓会 みずき会

みずき会会長 高橋 毅様

日本国際観光学会・学生動画コンクール

昨年開催された第26回日本国際観光学会全国大会「学生動画コンクール」で「アトラクティブ・アワード」を受賞しました。

動画内で紹介した新潟の隠れた観光の魅力や観光促進に向けた私たちの取り組みが高く評価されました。一昨年に続く2度目の受賞となり大変光栄に思います。それと共に私たちの活動が全国的に注目されていることを実感し、より活

「アトラクティブ・アワード」受賞

新潟の隠れた魅力発信

動に力を注いでいきたいと思っています。

現在クルーズ船で新潟東港に入港する外国人観光客向けのツアー作成に向け、これまでのインスタグラムやブログ投稿などの活動を踏まえて、それぞれのツアー案を作成し、話し合いを重ねています。現在、外国人観光客の案内ボランティアなどにも携わっており、リアルな活動もできるようなりました。

これを機に観光客の皆さまに直接お会いし、新潟の魅力をお伝えする活動を積極的に行っていきたいと思っています。

こうした活動を通じて日本国内だけでなく海外の方々にも新潟の観光を体感していただけるように、これからも楽しみながら活動に励んで参ります。そして今年もレベルアップした私たちの活動と新潟の観光の魅力を一「学生動画コンクール」という場で再び全国に発信したいと思っています。

(国際文化学科

4年 市野瀬 鈴花



新 入 生 に 望 む

国際学部



申 銀珠 学部長

満開の桜の下での入学式でした。コロナ禍の長いトンネルをようやく通り抜けたことへの祝福のように感じられました。コロナ禍で3年間高校生活を過ごした皆様にはもっと感慨深い気持ちがあったらと思うと思います。

国際学部の教育の特徴は、充実した外

後悔と不安を払拭し力強く生きよう

国語教育と留学プログラム、多様な観点からの国際理解・地域研究、少人数クラスでのゼミナールを柱とするものです。どれもが期待と不安を抱えての新しいスタートとなりますが、皆さん、まずは大学のカリキュラムと我々教員を信じて貪欲に学んでみませんか。もちろん大学での学びは知識を鵜呑みにするようなものではなく、決してありません。物事に対して疑う力、悩み考え判断する力を身につけて始めて知識は価値を生み出します。知識や情報が氾濫する世の中、真の人材とは、よい答えを見つかる人よりよい質問ができる人、と言われる所以です。一つ一つの基本を充実させながら、国際色豊かな教育環境で、ポストコロナ時代の新しい

グローバル化の荒波に備える能力をぜひ身につけてください。過去への後悔と未来への不安を払拭して今現在を力強く生きることが何より大切です。そして貴重な学びの機会を得られたことに感謝の気持ちを忘れないでください。まずは自分が元気になること、自分の周りを元気にし、新潟という地域を元気にすることから始めましょう。

乱世の時代、今後、反戦・平和運動は私たちの日常の中でより切実な課題となるでしょう。環境問題にも真摯に向き合わなければなりません。国際学部で学ぶことで皆さん一人一人が立派な大人に成長していくことを教員の一人として心より応援したいと思います。ご入学、おめでとうございます。

経営情報学部



藤田 晴啓 学部長

さい。この大学で将来あらゆる仕事・分野で、地域に留まらず世界に貢献できる生涯目標をみつけ、勉学して欲しいと希望します。

経営情報学部では、地域に根ざしながらグローバルに発展できる経営学と、人間中心で世界経済に貢献できる情報システムを学び、新潟にいながらも世界共存に関わる仕事に発展できるという勉学の機会が用意されています。

世界貢献の鍵となるのは専門（経営・情報）と英語の二刀流です。メールやSNSを含めた英語によるコミュニケーションをこれから努力してある程度使いこ

専門と英語の二刀流で世界に羽ばたけ

ロシアによるウクライナ軍事侵攻、無差別の市民生命とインフラの破壊、歴史に残る混乱の時代に入学された新入生へ。人権、自由な言論と学問が保証されている日本で勉学できるという日常がいかにありがたいことかを考え、保護者に感謝し、NUISに入学できた自分を褒めてくだ

す。バイトもじっくり兼務しながら専門と英語の勉強にいそしみ、次のステップに進めるかは、入学後早い時期に生涯目標を立てて二刀流の勉学を開始することにかかっています。

今年度から学部の海外短期留学制度である、カナダ夏期セミナーが3年ぶりに再開し、アルバータ大学に4週間留学してコミュニケーションスキルをアップするとともに、平日午後の市内見学によるカナダの歴史・文化・社会を学べます。さらに全期間のホームステイを通じてホストファミリーとの一生ものの繋がりができます。

NUISには、目標に向かって切磋琢磨する仲間、先生方がいます。そして自分らしさを見つかることができます。そんなNUISと一緒に学びましょう。

合同企業説明会

聞けたぞ!先輩たちの生の声 101社に211人が参加

令和6年3月卒業予定者を対象にした学内合同企業説明会が3月15、16日に開催され、2日間で211人の学生と企業101社が参加しました。学生たちは企業の人事担当者の話に熱心に耳を傾け、企業や仕事に対する理解を深めていました。

参加企業の中には、実際に働く本学卒業生の姿を紹介する企業もあり、学生たちは親近感を持ちながら話を聞いていました。普段は得られない先輩たちの生の声が聞ける、有意義な時間となりました。

説明会の終了後、企業の人事担当者からは「学生の現在の状況やどのような分野に興味を持っているのかを知ることができた」「対面で学生と接点を持つことができた」との感想をいただき、学生からは、「就職活動における自分の視野や選択肢を広げることができた」という声が聞かれました。ご協力をいただいた企業の皆様には感謝申し上げます。今後



もキャリア支援課では、企業の皆様と連携を取りながら、学生への就職活動支援に尽力していきます。
(キャリア支援課)

4カ国・28人 それぞれの異文化体験

ニュージーランド

私は4カ月間のワイカト大学への留学で主にニュージーランドの英語と文化について学び、英語力だけではなく、人として大きく成長することができました。

ニュージーランドではイギリス英語が話されていました。アメリカ英語とイギリス英語は発音や表現の仕方が少し異なりま

す。私はずっとアメリカ英語を勉強して

きたので、初めは、イギリス英語とニュージーランドスラングを理解するのにとても苦労し、慣れるまでに時間がかかりました。でも私のホストマザーが、夕食の後に英語での表現方法や私の大学の宿題を教えてくれました。その結果、徐々に皆が何を言っているの

「ハカ」で学んだマオリの文化

国際文化学科 和田彩花

ることが分かりました。

4年生で留学するのはとても勇気がいりましたが、ずっとやりたいと思っていたことが一つを、ようやく実現することができました。この貴重な経験を忘れないで、これからも楽しく英語を勉強していきたいです。

最後に学務課の方々や大学の先生方、卒業論文の指導をしてくださった臼井先生、どんな時も応援してくれた家族には感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

中国

国境越えてオンライン討論

国際文化学科 伊藤愛里

きました。

コロナ禍のため2年間中止されていた海外派遣留学が令和4年度に3年ぶりに再開されました。参加した4カ国・28人（中国の4人はオンライン留学）は2月末までに帰国し、3月15日に本学国際交流センターで「令和4年度派遣留学修了報告会」が開かれました。各コース代表者の報告を誌上で紹介します。



マオリの人たちと(後列中央が和田さん)

私たち中国語コースの学生は、昨年9月から4カ月の間、オンラインという形で留学しました。最初は、オンライン授業に不安を感じていましたが、クラスメイトや先生とすぐ打ち解けることができました。私のクラスには、ロシア、ペラル

シ、スペイン、韓国、日本人の学生が在籍していました。授業では自分の考えを話す機会が非常に多く、全員が間違



派遣留学修了報告会・中国語コースの参加者たち

いを恐れず、積極的に発言していました。毎回、会話の授業の冒頭では、それぞれ自国の文化や伝統、国民性などについて発表が行われました。この授業を通して、中国に限らず多種多様な文化に触れることができました。また他の授業では、討論したいネットニュースを取り上げ、さまざまな社会問題について話し合いました。国籍も年齢も違う学生たちと討論ができたことは、大変貴重な経験になりました。今回、現地に行くことはできませんでしたが、先生方は動画などを用いて中国文化や中国の流行について教えてくださいました。また、休日にはオンライン旅行を計画してくださり、現地の雰囲気を感じることができました。

地ワークショップin新潟
・(2022年10月29日)「環境保全型ツーリズムの展開と地域資源の持続可能性を実現するアドベンチャーツーリズム：タイ王国シラン諸島を事例として」日本国際観光学会 第26回全国大会 (戸板女子短期大学)

藤本 直生(国際文化学科・准教授)

・(2023年2月15日)「Team Teaching and Communication in the English Classroom」ALT Agora (Online)

山下 功(経営学科・准教授)

・(2022年11月26日)「鉄道模型の縮尺・軌間呼称における情報伝達機能の不全」第18回情報システム学会 全国大会・研究発表大会 (新潟国際情報大学)

吉澤 文寿(国際文化学科・教授)

・(2022年12月18日)「日韓会談反対運動に関する日常史研究—日本朝鮮研究所事務局長の日記を通して (1953年4月から1959年11月まで)—」在日朝鮮人運動史研究会関東支部 (上智大学)

3)委員・社会的活動・記事・その他

内田 亨(経営学科・教授)

・(2023年1月23日)「既存資源の組み合わせによるイノベーション：陸上養殖における事業創造」『世界経済評論IMPACT』No.2827

藤田 美幸(経営学科・准教授)

・(2022年10月2日) 2022年10月2日付 新潟日報朝刊「まいにち ふむふむ」の全面記事に、オンラインマラソンにおける参加者の動機づけの研究について高校生に解説
・(2022年10月2日) 新潟日報「教育モア」に、オンラインマラソンにおける参加者の動機づけの

研究と海外研修先であるタイでの研究について高校生に解説 (新潟日報：教育情報サイト)
・(2022年12月16日) 越後平野における生態系ネットワーク推進協議会自然環境活用部会 副部長 (国土交通省)
・(2023年2月8日) 2023年2月8日付新潟日報朝刊「新潟市のラーメン」のブランディングとマーケティング戦略についてコメント掲載

藤瀬 武彦(経営学科・教授)

・(2022年11月6日) 第46回新潟県パワーリフティング選手権大会 審判及び陪審員 (五泉市栗島ふれあい館体育館)

堀川 祐里(国際文化学科・講師)

・(2023年3月5日) 東京大学大学院人文社会系研究科国際卓越大学院プログラム、異分野共同演習、ワークショップ「構造的視点としてのジェンダー」コメンテーター (オンライン)

山下 功(経営学科・准教授)

・(2022年7月16日) コメント掲載：米倉昭仁「鉄道・バスの無料Wi-Fiサービス相次ぐ終了 大規模通信障害のトラブル時にも使えるのになぜ?」『AERA dot』朝日新聞出版 (https://dot.asahi.com/dot/2022071500015.html)
・(2021年4月1日より継続～) 新潟県立巻総合高等学校評議員

山田 裕史(国際文化学科・准教授)

・(2022年12月23日)「毎日新聞」(デジタル版)「200万人虐殺の裁判終結 キリングフィールド包む癒やしと無念」にコメント掲載
・(2022年12月31日)「毎日新聞」(全国版・朝刊)「クローズアップ：カンボジア大量虐殺 進む独裁 法支配遠く」にコメント掲載
・(2023年1月3日) スウェーデン・ヨーテボリ大学のV-Dem (Varieties of Democracy) ProjectにカンボジアのCountry Expertとして参加

再開された派遣留学

ラトビア

意思疎通に言語の壁を実感

国際文化学科 井上 拓海

本当にありがとうございました。

私はラトビアのダウガピルス大学に4カ月間留学しましたが、言語の壁を実感しました。現地に出会った人の中に日本人はおらず、日本語を話せる人は一人もいませんでした。寮で一緒に住む人の中にはロシア語を勉強していない人もいました。そのため、授業以外の会話はほとんど英語でした。最初は英語も使えずGoogle翻訳を頼っていましたが、一方的なコミュニケーションになってしまいました。みんなで食事に行ったりときには聞き取れない、話せない、あまり楽しくありませんでした。他国の大学生はみんな英語を当たり前に使い、すぐに打ち解けていました。先生もロシア語と英語は全員使えてい



派遣留学修了報告会

ました。世界レベルではこれが普通で、英語が話せる人がすごいと言っているようではまだだと思いません。やはり海外で生活するには、ロシア語圏の国でも英語は必須、英語が使えないと話にならないと気が付きました。今回の留

韓国

人の温かさを感じた留学生生活

国際文化学科 渡邊 瑠華 入澤 京香

約5カ月間の留学生生活を終え、こうして新潟に帰ってくる事ができてうれしく思っています。寄宿舎の先生、警備の方、コンビニの店員さん、道行くおばさんなど人の温かさを感じながらのあつという間の留学生活でした。韓国は日本に比べると新型コロナウイルス感染症の規制が緩かったため、授業や生活にもそれほど影響はなく、日常会話力に身をつけることができました。韓国語の授業では香港やロシア、マレーシアなどさまざまな国の人と出会うことができました。お互いの故郷について韓国語で話したり、休日一緒に遊びに行ったりしたことは、私たちの大切な思い出となりました。留学でしか味わえない貴重な経験だったと思います。また慶熙大学には、韓国人



景福宮で韓服体験

在学が留学生のサポートをする、トウミ制度というものが有ります。トウミと過ごした時間は私たちにあって、同年代の韓国人と話せる貴重なものとなりました。最後に今回の留学にあたって、サポートしてくださった多くの方々のおかげで私たちは心置きなく留学生生活を送ることができました。本当にありがとうございました。



ロシア語履修者たちと一緒に(前列左が井上さん) 留学生の出身国はベルギー、イタリア、スロバキア

教員の活動 (本人申告による)

1) 研究論文・図書

内田 亨(経営学科・教授)

・(2023年2月) Remy Magnier-Watanabe "Predictors of subjective wellbeing at work for regular employees in Japan", International Journal of Wellbeing, Vol.13, No.1 (36-58)

申 銀珠(国際文化学科・教授)

・(2023年2月) 「植民地と文学」第Ⅶ部「朴景利の対日認識と歴史観に関する考察—『土地』に描かれた日本・日本人・日本論を中心に—」第2章 (401～430頁) 小山田紀子・吉澤文寿・ウォルター・ブリュエール＝オステル編著『植民地化・脱植民地化の比較史 フランス・アルジェリアと日本・朝鮮関係を中心に』藤原書店

小山田 紀子(国際文化学科・教授)

・(2023年2月)小山田紀子・吉澤文寿・ウォルター・ブリュエール＝オステル編著『植民地化・脱植民地化の比較史 フランス・アルジェリアと日本・朝鮮関係を中心に』藤原書店 (544頁) 吉澤文寿共著「はじめに」(1～7頁)、「アルジェリア植民地化と植民地支配の構造」第Ⅰ部 第2章 (61～90頁)、カメル・シャシュアの論文の翻訳「フランスへのアルジェリア移民」第Ⅳ部 第3章 (301～320頁)、「幕末日本のフランス公使レオン・ロッシュの生涯」第Ⅴ部 第1章 (323～346頁)、「アルジェリアの独立と引揚者の歴史」第Ⅶ部 第1章 (433～458頁)、W.ブリュエール＝オステルの論文の翻訳「結び グローバルヒストリーと日本・フランスの植民地化・脱植民地化の比較史の交錯」(523～529頁)、「おわりに」(531～535頁)

藤田 美幸(経営学科・准教授)

・(2022年9月) 「国内アドベンチャーツーリズム研究の萌芽：文献レビューからの一考察」日本国際観光学会自由論集 第6巻 (83～88頁)

山田 裕史(国際文化学科・准教授)

・(2023年2月) "Internal Politics in Cambodia and the CPP Government's Tilt toward China", Supervised by Kitaoka Shinichi, A Western Pacific Union: Japan's New Geopolitical Strategy. 出版文化産業振興財団 (219-243)

吉澤 文寿(国際文化学科・教授)

・(2023年2月) 小山田紀子・吉澤文寿・ウォルター・ブリュエール＝オステル編著『植民地化・脱植民地化の比較史 フランス・アルジェリアと日本・朝鮮関係を中心に』藤原書店 (544頁) 小山田紀子共著「はじめに」(1～7頁)、「『1965年体制』の現在地—置き去りにされた植民地支配責任の行方を探る—」第Ⅱ部 第3章 (165～181頁)、「解放後の南北朝鮮の政治経済」第Ⅲ部 第3章 (227～252頁)

2) 学会・研究会・講演等

梅原 英一(情報システム学科・教授)

・(2023年3月4日) 細川進「新聞とインターネット株式掲示板を用いた金融指標の予測」第30回人工知能学会 金融情報学研究会 (東京大学)

佐藤 泰子(国際文化学科・講師)

・(2022年10月29日) 「産業・官・学の連携を支えるにいがた観光学生サポーターズの取り組みについて」 by NUIS TOURISM PROJECT (内藤奏音・山口玲加・曾山日菜子・高橋彩加・野瀬夢・丸山望美・相澤裕花・市野瀬鈴花・今田志・齋藤我生・佐藤陽美) 日本国際観光学会第26回全国大会 学生動画コンテスト (戸板女子短期大学)

藤田 美幸(経営学科・准教授)

・(2022年10月14日・15日) 招待講演、パネリスト「越後平野の生態系ネットワークを活かした関係人口の創出：アドベンチャーツーリズムにフォーカスして」第20回応用生態学会 北信越現

新潟国際情報大学
学長 越智 敏夫

本日はご卒業、おめでとうございます。
このようなおめでたい場ですので、本来であれば「はなむけの言葉」を皆さんにお伝えするべきでしょう。でも「はなむけ」というのも変な言葉です。漢字で書けば「鹽」というパソコンでなければ書けそうにない難しい字です。本来は「馬の鼻向け」から来ているそうで、お祝いのなか馬鹿にしているのかよくわからない言葉です。そういう微妙なニュアンスに対して、さすが優秀な文人は反応しています。たとえば紀貫之の『土佐日記』には「舟路なれどもはなむけす」という有名なフレーズが出てきます。

でもそんな駄洒落のようなことを言ってもしょうがないので、大学を卒業するみなさんに何を伝えるべきか、この数日考えていました。そしてその数日の思考の結論としては、ただ生きていけばいい、ということ。何があるかと生きてさえないばい。それだけで十分です。そう考えた理由について少しお話ししたいと思います。

これも正直に言いますが、僕は学生のころからいわゆる人生啓蒙書というものが苦手でした。「男が二十代でやっておくべきこと」とか「できる女の十の習慣」とか。そういう本からは距離を取りたいという。あるいはそういう本を読んでいる人を馬鹿にしたいという。だいたい人生って啓蒙されるべきも

のなんだろう、か、そもそも啓蒙ってなんだ。そういうことをついつい考えちゃうわけですね。

なんでそういうことを考えてしまうのか。それは自分自身の実感からくるものです。学生のときには面白いと思った科目がつまらなかつたとか、いやいや受けた授業が面白かつたとか、そんなことはいくつもありました。ですから仕事に関しても、望んでいた職業についてみたもののまったく面白くないとか、不本意ながらやらされた仕事の日々が結果的には充実していたということもいくつでもあるのも当然です。また世の中は本当に運、不運ということも大きく、たまたまその場所にいたからそうだった、みたいなこともいくつでもあります。要するにうまくいかなかったらと自分の人生を「啓蒙してくださる」

自分で考え、判断し、後悔する 「解釈する主体」であり続けよう

書物ってなんだろうということになるんですね。そういう世の中の複雑さというのか、そのようなものに気づいてしまうと、とてもじゃないけれど「だれでもわかる成功の秘訣」みたいなものが非常に胡散くさく見えてしまいます。それと同じで「陰謀論」などについても「ああこれは世の中を単純に見たい愚かな人たちがするもの」だということに気づきますし、「論破しました」というような物言

いも、じつは何も考えないことと同義であるとかわかってしまいます。陰謀で説明できるほど世界や社会の現象は単純ではないですし、論破できるような問題は最初からいたした問題ではないのです。現在のコロナ禍やウクライナ紛争を見れば、いかに社会が複雑で錯綜した価値や論理で動いているか、よくわかると思います。

そういう複雑で怪奇な現実があるからこそ、そのなかで生きている私たち人間が完全

であるはずもないでしょう。世の中は問題だらけだし、人間の能力には限界があります。そもそも人間ではない神でさえ完全ではないのかもしれない。神が創造主で完全な存在なら、なぜこんな不完全な世界を作ったのか、というのはあらゆるまともな宗教が直面せざるをえない大問題です。

ことわざにいう「神は自ら助くる者を助く」というのは、実は非常に人間主義的なものであって、それは「神はなにもしない」「奇蹟は起きない」という宣言でもありません。その先は宗教によって違いますし、僕は無神論者で、本学も宗教系大学ではないのであまり深入りするつもりはありません。ただその宣言が人間に命じていることはまちがいになく「自分でものを考えろ」ということです。生きていく各自がものを考えるのです。その意味では「解釈する主体」であるということです。これはまた最近の「それはあなたの

感想でしょ」といっただけで何か相手を論破したかのように見える愚劣な物言いとまったく異なるものです。それでは解釈とはどういうことでしょうか。

昔読んだある少女マンガにとても印象的なシーンがありました。近代初期のヨーロッパで貧しい行商人の団が生まれたての赤ん坊をある町に置いていかざるをえなくなりました。そして彼らは赤ん坊の名前を書いた紙を小銭とともに小さな袋に入れて赤ん坊の首にかけ、その町を去ります。そのコマに書かれていた言葉は「その額の少なさは彼らの生活の貧しさを語り、その額の多さは置いていった子供への彼らの情愛の深さを表していた」というものです。これは同じ事実でもそれをどう考えるかということが大事だということを示しています。その感動的なコマを揶揄するのはよくないのですが、例えば逆も言えますよね。「その額の少なさは彼らの無責任さ

を、その額の多さは彼らの生活の余裕を示している」とか。

そのように書いていないということは、この少女マンガ家がある判断を下しているということ。事実を解釈する人間の主体性、責任のありかたを示しているということ。これが解釈する主体ということであって、私たちが生きているということはこの解釈する主体でありつづけるということです。だから「それはあなたの感想でしょ」とかいう愚民たちは「自分で自分の感想をもってどこが悪い」と怒りをぶつけるべきなのです。

そして実はこうした「あなたの感想でしょ」ではない世界を作り上げるものが学問であり、それをおこなう場所のひとつが大学であるはず。そして皆さんはそこで四年間を過ごしてきました。なのでこの後、どのような人生があるかとも、とにかく生きていく限り、皆さんは解釈をし続けていくのです。その意味で、もう少し言うと、大学

を出た以上はある覚悟、つまり解釈をする覚悟のようなものがついてまわります。その覚悟をさらに言い換えると「価値の体系としての学問」でもあります。少し面倒なことですが、この価値の体系があるからこそ私たちの感想が単なる感想であることを超え、ある「意見」となるのです。

大学で勉強した以上、その分野の体系的な学問に触れているはず。そして解釈する主体であるという「覚悟」をもつということです。これもわかりやすくいうと「何があっても他人のせいにしてはいけない」ということです。いくら覚悟があっても、当然人間は失敗もします。だからこそ後悔に意味があるのです。後悔しても、あれもこれも自分のせいだったと思っている限りはどうともなりません。生きてさえないばい、良いこともあれば悪いこともあるからです。

「ああすればよかった」「なんであんなことをしたんだろう」など、いろいろ思います。しかしそれらもすべて自分が選んだこと。その意味では後悔とは過去の自分と今の自分が出会うことでもあります。いろんな選択肢

があつたなかで、現在のものを選んできたのは、ほかでもないあなたです。

最初にちよつと名前を出した紀貫之という人は不思議な人です。ふつう教科書ではさきほどあげた『土佐日記』の作者、あるいは『古今和歌集』の選者の一人として紹介されていると思います。しかしこの貫之はとんでもない不幸な人でもありました。貫之が生まれたときはすでに紀一族は摂政だった藤原氏に圧倒されていて、政府の隅っこに追いやられていました。貫之は『古今和歌集』の選者となつて文化人としてはそれなりに有名になりましたが、政治家としては閑職のまま年をとっていきます。そんななか、やつとありついたのが土佐守という仕事で、現在の高知に赴任します。

ちなみに当時の国司は赴任地で賄賂を受け

理事長祝辞



学校法人新潟平成学院
理事長 佐々木 辰弥

本日、卒業を許可された289名の皆さん、おめでとうございます。ご参列いただいております御父母の皆さまにも心からお祝い申し上げます。小学校から数えて16年の長きにわたりご子弟を励まし、支えてこられました、衷心より敬意を表します。

本学は、創設者である、元衆議院議員の小沢辰男先生の「郷土の発展は人づくりから」という想いの下、新潟県、新潟市をはじめ多くの自治体、企業からのご寄附や補助により、国際化と情報化に貢献できる人材の育成を理念に、1994（平成6）年4月開学しました。今から29年前のことです。過つて当時を振り返つてみますと、開学の前の年には皇太子殿下・雅子さまのご成婚、プロサッカーリ

取り、不正蓄財をおこなうことが常識でした。ところが貫之はそういうことをおこなわず任期を終え、貧乏なまま京都に戻ります。帰つてみたら貫之を支持していた政治家たちはほぼ全員死に絶えており、彼はまた政府の隅っこに追いやられます。そのときに彼が書いたのが『土佐日記』です。「をとこもすなる日記といふものを、をむなもしてみんとするなり」という書き出しが有名ですね。これは差別的言辭でもある今ふうな言葉でいうと「ネットおかま」みたいなものです。

しかしここにはどのような意図があつたのでしょうか。もちろん土佐の現状も書いている日記ですから、当時の腐敗した政治を批判する意図はあつたでしょう。社会内のさまざまな矛盾や問題も、軽妙な筆致も交えて描いています。さらには自分自身の家族への愛情

リーグのJリーグの開幕、一方、大学開学の翌年には、阪神淡路大震災や地下鉄サリン事件等の痛ましい災害や事件も発生しています。その時代から29年間、25回の卒業式を挙行し7200人を超える卒業生を輩出してきました。本学にとつては学部学科の改組などもございましたが、幸いにも大きな事故・事件に巻き込まれることもなく今日を迎えました。多くの卒業生が県内外で活躍頂いておりますことを大変うれしく誇りに思っています。

皆さんは今日で大学間での教育の享受を終了し、明日から実社会に進むことになります。

今、世界は各地で地域紛争、差別や人権問題、自然災害や環境問題等人類の生命を脅かす脅威が頻発し、これまでも増して非常事態の様相を呈してまいりました。また足元では、新型コロナウイルスの猛威、景気・経済の落ち込み、少子高齢化や人材不足等国力の低下も顕著になっております。

皆さんは、いよいよこの不透明、不確実な実社会の只中に踏み出すこととなります。明るく、希望が持てる社会であつてほしいと願いますが、そう簡単ではないでしょう。それが自分ができることは？と考へてみてください。イギリスの政治家ベンジャミン・デ

や、自身の老いについても正確に書き留めていきます。そのような領域が日本で初めて文字で表現されたのです。さらにそれらの表現を通して、和歌の技法とは何か、文学とは何かという大問題まで読者に伝えようとしていきます。そして男は漢詩を書くことしか許されてなかった当時、貫之にとつては女のふりをしひらがなで書くことによつてのみ、そうした問題を論じることが可能になったのです。

こうして『土佐日記』は日本初の日記文学として歴史に残ります。この作品があつてこそ、約六十年後に女性によつて『枕草子』と『源氏物語』も生み出されます。これが紀貫之の覚悟と後悔の結果です。これも彼が自分の不幸を他人のせいになかったおかげで得られたものです。

スレーリと言う人は「逆境は最大の教育環境である」と言っております。人間は理念・目的を持つて行動するときや没頭できることに出会えた時に強い自主性を発揮します。皆さんはこの4年間、本学の教育方針である「自主的に判断し、自ら表現する」ことを学んできました。まず自分で考え、先生や友人と培ったコミュニケーション力を信じて一歩を踏み出してください。そこからが始まりです。そして、常に感謝の気持ちと敬意、尊敬の念を忘れないでください。社会は自分と同じ考えの人ばかりではありません。性別、職業

も職種も異なります。多様性を認め合う社会においてお互いが敬意と尊敬の念をもつて接することで理解が深まり、無用なトラブルや衝突の多くは避けられます。また、我々は一人であるわけではなく、家族や先輩・後輩、友人はじめ多くの人や仕事と関わっています。常に今の自分があることに感謝し他者に敬意をもつて精進してください。いま、我が国は少子化が大きな社会問題となつています。昨年の出生者数は79万9千人と初めて80万人を割り込みました。岸田内閣

みなさんに紀貫之になれとは言いません。しかし、彼の生き方にはなんらかのヒントはあるように思います。自分で考え、自分で判断し、自分で後悔もする。それが生きていくということ、それさえできれば十分です。

書店の人生啓蒙書コーナーなどに並ぶ「男が二十代でやつておくべきこと」「できる女の十の習慣」などという本の愚かさ、実は大事なことを他人に求め、他人に判断してもらい、他人に責任を押し付けようとする愚かさに通じます。そんなものを読むくらいなら、『土佐日記』、あるいは『カラマーゾフの兄弟』でも読んだほうが一億倍ましです。もしそれらを読んでつまらなかったら大学に来てください。謝ります。コロナがおさまつていて、時間もあれば酒席もつきあいます。本日はご卒業おめでとうございます。

は関連予算の倍増等異次元という言葉を使つて少子化対策を打ち出したところで。遅きに失した感がありますが、期待したいところです。少子化は経済成長力の低下や社会保障制度の面のみならず、学校経営の面からも死活問題です。新潟県内には20を超える国公私立大学があります。新潟県内にも収容定員を満たさない大学が半分あります。いわゆる定員割れ状態にあります。本学はこの29年間一度も定員割れすることなく極めて順調に運営がなされてきました。熱心に教育・支援をされる先生方、職員のご尽力は勿論のこと、

他者への敬意と感謝忘れずに

これまでの卒業生の社会での活躍が評価を得ている証左だと思います。これま

での30年を振り返り、そして、これからの30年に向けて、皆さんの母校として恥ずかしいよう、そして発展し続けるよう法人、教職員一体となつて常に大学改革に努めてまいります。どうぞ皆さんも折に触れて、故郷、新潟国際情報大学を訪ねてください。

最後にこれから新たに社会人として人生を送られる皆さんには、健康で希望に満ちた人生を歩まれるよう心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉と致します。



〈総代〉国際文化学科

津野 智香

冬の寒さも和らぎ、春の訪れを感じる季節となりました。本日は、教職員をはじめ、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席のもと、私たちのためにこのような盛大な卒業式を挙行していただき、卒業生一同、心より御礼申し上げます。4年前の春、着慣れないスーツに身を包み、期待と不安でいっぱいの中、大学入学を迎えた私たちは、早いもので今日という卒業の日を迎えました。

非日常の中の宝物の4年間

大学生活を振り返ってみますと、大きな選択の連続だった4年間でした。どんなサークルに入り活動するのか、どんなゼミナールで勉強するのか。また、大学で最も注力することに学業を選択したこと、入学前の「大学では英語を勉強したい」という気持ちに反し、未知の学問に挑戦したいという新しい思いから中国語を選択したこと、そしてあえて苦手な分野の授業を選択してみたこと。4年間のさまざまな選択が、私の視野を広げ、現在の自分を形作っていると感じています。時には自らの選択に後悔をしたこともありましたが、けれども自分自身で選んだ道だからこそ、その選択を正解にする努力が必要なのだと思います。

特に卒業論文では、インターンシップを通して実際の現状を目にした経験から、DV問題をテーマとして選択しましたが、何度も論文を書き直されるのかという不安に襲われました。DVをはじめとする社会問題は、

壮大かつ難しいテーマであり、簡単に解決方法が見つかるものではありません。しかしその一方で、誰でも当事者や関係者に成り得る問題でもあります。だからこそ目を背けるのではなく、私たち一人ひとりが当事者のような意識をもつことが問題解決への第一歩なのだと、卒業論文の執筆を通して学ぶことができました。

そして何より、本当に人との出会いに恵まれた4年間でした。親身になってご指導くださった先生方。互いの将来や考えについて議論する楽しさを教えてくれ、新しい世界をたくさん見せてくれた友人との出会いのおかげで、大学生活の4分の3が非日常だったにも関わらず、宝物のような4年間を過ごすことができました。

温かなご指導とサポートをしてくださった教職員の皆様、ともに学び、笑い、涙し、かけがえのない時間を過ごしてくれた仲間、そして精神的にも経済的にも支えてくれた家族に、心から感謝いたします。本当にありがとうございました。今後の後輩の活躍と新潟国際情報大学の発展を願い、答辞とさせていただきます。

祝電

順不同

日本私立大学協会	会長	小原 芳明 様
新潟県	知事	花角 英世 様
スズキ新潟販売株式会社	代表取締役社長	松山 明裕 様
新潟日産モーター株式会社	代表取締役社長	遠藤 佳彦 様
株式会社マルイ	代表取締役	清水 辰雄 様
システムアライズ株式会社	代表取締役	阿部 康之 様
新潟総合警備保障株式会社	代表取締役社長	廣田 幹人 様
株式会社総研システムズ	代表取締役社長	清水 保 様

退職教員 あいさつ



これまで・と・これから

情報システム学科教授 石川 洋

いまし。大変お世話になりました。研究、教育、校務と自分なりに努力してきたつもりです。個人的には、

2008年4月に着任し、気が付いたら15年経過し、海外夏期セミナーの引率と海外研修（デンマーク）は大変有益な体験でした。私自身、まだ発展途上（まだ伸びる余地があると信じたい）なので、本学では叶わなかったことを、次の職場では実現できるような頑張りを残したいです。



充実した日々ありがとうございました

国際文化学科教授 アレクサンドル プラソル

して教えた2年を加えれば、25年になる長い付き合いとなります。教育者以外の仕事をすることはありますが、本学では母語でない言葉での講義、ゼミの進め方や委員会活動等、生涯で初めて味わった任務がたくさんありました。

本学に着任したのは2000年のことです。当時のことは方法や手段がわからず思うようにできなかったのが、教職員の皆さんや学生たちに迷惑をかけたに違いないと思います。寛容な雰囲気の中で困難を乗り越えることやマインドの誤りを正すことを手伝ってくださった教職員の皆さんに心から感謝しています。18歳から学び始めた日本社会・文化等をこの目で見てながら、近くて遠いロシアを学生たちに紹介することができたのは運がよかったと思います。本学の益々の発展と繁栄をご祈願いたします。



学生と共に成長した3年間

情報システム学科講師 宮北 和之

た。2020年4月の着任時、ちょうど新型コロナウイルス感染症が流行り始め、最初の授業はオンラインでした。

本学の専任講師として、3年間で、大変お世話になりました。最初の授業はオンラインで、

4年間の学生生活において、私が中心となった活動は3年次のゼミ活動でした。特に地域活動やNWプロジェクトを遂行したことです。コロナ禍で思うように活動ができないう時期もあり、いろいろな壁にぶつかることもありましたが、限りある条件の中で、自分たちにできることは何か、状況を良くしていくには、何が必要かを考えることで、社会との繋がりを深く知る経験ができました。他学部のゼミの仲間も含め、難しい課題があっても皆で話し合い、乗り越えられました。活動に協力していただいた地域の方々の温かさや先生方や企業の方々のご指導いただいたことに大変感謝しています。この経験を糧に今後の社会生活を歩んでいきます。ありがとうございました。

ゼミ活動で社会を体験

経営学科 菊地 初月

卒業にあたって

それぞれの青春 宝物のような思い出

私にとって大学生活の4年間は、多くの経験を積むことができた貴重な時間でした。特に経験できてよかったと感じるのは、学友会執行部での活動です。執行部に入ったきっかけは「大学生らしく、何かサークルには入っておこう」という単純な理由でした。なんとなく入った学友会でしたが、2年次からは学友会長を2年間務めさせて頂きました。就任当初は新型コロナウイルス感

経験積み重ねた学友会

情報システム学科 島垣 光

感染症の影響で、多くの不安がありました。しかし、部員や大学教職員の皆様から、一つ一つ乗り越えることができました。充実した学生生活を送ることができたのは、家族をはじめ大学で出会えた仲間や教職員の皆様があつてこそです。本当にありがとうございました。

私の4年間の学生生活は国際交流ファシリテーターの活動と共にあつたと感じています。県内のさまざまな学校で国際理解ワークショップを実践できたのはとてもいい思い出となりました。活動を通して先輩や後輩、同期といつた多くの仲間たちと出会うことができました。その仲間たちと多くの時間を共にし、時に衝突することもありましたが、その都度、お互い

共に過ごした仲間たち

国際文化学科 西方 健人

に話し合ってきました。こうした経験は私自身の大きな成長につながつたと思っています。このような一生に一度の経験ができるとは思っていませんでした。4年間支えてくださった先生方、国際交流ファシリテーター推進員、両親、大学の友人には感謝しかりがとございます。

私は大学4年間で、他では得られないような経験をたくさんさせていただきました。特に、NUIST TOURISM PROJECTでの活動や、イギリス・キングスオックスフォード校での語学研修は、強く印象に残っています。NUIST TOURISM PROJECTでは、県の観光協会と手を組んだ活動や、県内で撮影が行われた映画への出演など、とても貴重な経験を積むことができました。

忘れられない語学研修

国際文化学科 内藤 奏音

また、海外実習では、ヨーロッパの歴史を直に感じられるキングスオックスフォード校で、さまざまな国籍の学生との交流や多種類のアクティビティを通し、かけがえない思い出をつくることができました。非常に短く感じたものの、とても中身の濃い4年間を過ごすことができました。関わってくださった先生方や職員の方々に、深く感謝申し上げます。

JABEE認定プログラム 21人に修了証書



(情報システム学科 准教授 河原 和好)

日本技術者教育認定機構(JABEE)に認定されている情報システム技術プログラムの令和4年度修了証書授与式が卒業式に先立って新潟市民芸術文化会館(りゅうとぴあ)で行われ、21名に修了証書が授与されました。JABEE認定基準は国際的な技術者教育認定制度に準拠しているため、修了生は世界に通用する教育を受けた技術者として認められ、国家資格である技術士の第一次試験が免除される優遇措置が受けられます。卒業後は、毎年開催される修了生、卒業生、技術士、教員の集まりである「交流会」に参加し、多様な業種間交流や自己研さんの場として活用していただきたいと思っています。

晴れやかに289人学窓巣立つ

令和4年度卒業式

令和4年度（第26回）卒業式が3月18日、新潟市民芸術文化会館（りゅーとぴあ）で行われ、289人（国際学部114人、経営情報学部173人、情報文化学部2人）の卒業生が、社会への第一歩を踏み出しました。

式典では卒業生が一人ずつ名前を呼ばれて起立し、各学科代表に学位記が授与されました。続いて式辞に立った越智敏夫学長は、『土佐日記』の著者紀貫之の生き方を例に挙げながら、「自分で考え、自分で判断し、自分で後悔もする。それが生きていくということですよ」と激励し、「何があっても他人のせいにはしない。自分でものを考える」解

釈する主体』であり続けてほしい。」と呼びかけました。

卒業生を代表して国際文化学科の津野智香さんが「私たち一人ひとりが当事者意識を持つことが問題解決への第一歩であることを学びました。お互いの将来や考え方を議論する楽しさを教えてくれ、新しい世界をたくさん見せてくれた友人や先生方との出会いのおかげで、宝物のような4年間を過ごすことができました。心から感謝いたします」と答辞を述べました。

恒例の祝賀会はコロナ禍のため4年連続で中止となりましたが、初々しい入学式、紅翔祭、スポーツ大会、卒論発表会などを収録した「スライドショー」が上映されました。4年間の大半をマスク着用で過ごした卒業生、ようやく人数制限が撤廃され、来場した多くの保護者が、懐かしそうに思い出に浸っていました。動画を収録したDVDは各卒業生に贈られました。

第26回までの卒業生は合計7,551人に

年 度	国際文化学科	経営学科	情報システム学科	卒業者数
令和4年度(第26回)	114人	98人	81人	293人

※9月卒業生含む



令和4年度 卒業生 特別表彰

国際文化学科 津野智香
経営学科 高柳龍人
情報システム学科 長谷川翔

学長賞（学業成績優秀者）

課外活動賞

国際文化学科 高橋元輝

フィットネス研究部に所属し競技力向上に励みジャバング選手権大会へ出場を果たすなど優秀な成績を修めた

国際文化学科 古関里桜香

第3回全日本大学生中国語スピーチコンテストなどで優秀な成績を修めた

国際文化学科 内藤奏音

日本国際観光学会第25回全国大会「学部学生動画コンテスト」で優秀な成績を修め、語学力を活かした課外活動に積極的に取り組んだ

国際文化学科 山口玲加

日本国際観光学会第25回全国大会「学部学生動画コンテスト」で優秀な成績を修め、TOEICにおいて優秀な成績を修めた

地域交流賞

国際文化学科

石橋歩美 高橋彩笑
齋藤実佑 津村和楓
佐藤優樹 丸山紗英

赤塚地域において子どもの居場所づくりなどの地域密着型のボランティア活動により地域貢献に尽力した

国際文化学科

石黒羽那子 小池きらら

岩野ひかる 新保 翔

小黒 麻由 横山 彩花

川崎 帆乃樺

情報システム学科

新潟県内において本学で学んだ理論を応用しながら様々なプロジェクトに携わりSDGsの普及啓発と地域活性化に尽力した

国際文化学科 高橋 彩笑

小池きらら 津村 和楓

本間 温也 本間雄太郎

学術賞

国際文化学科

殖栗彩瑛

高橋 亮太

長井 凜

八木翔里

情報システム学科 長谷川翔

高度な資格取得に向け努力し基本情報技術者試験ならびに応用情報技術者試験において優秀な成績を修めた